

奈良県地域職業能力開発促進協議会
ワーキンググループにおける
訓練効果の把握及び検証について

奈良県地域職業能力開発促進協議会 ワーキンググループの開催状況等について

1. 検証・改善を行う訓練分野

営業・販売・事務分野	委託訓練	応募倍率は89.6%、就職率が86.1%
	求職者支援訓練	応募倍率は92.0%、就職率が50.5% (従前の就職率88.9%)
医療事務分野	委託訓練	応募倍率は63.8%、就職率が100.0%
	求職者支援訓練	応募倍率は95.6%、就職率が76.0% (従前の就職率80.8%)

※4年度実績を記載

2. ヒアリング実施状況

- (1) ヒアリング実施時期 7～8月
- (2) ヒアリング実施者 奈良労働局、奈良県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構奈良支部
- (3) ヒアリング先
 - ①職業訓練修了者 6人(営業・販売・事務分野3人、医療事務分野3人)
※全て職業訓練コースの内容に関連した業務への就職
 - ②職業訓練修了者採用企業 6社
(営業・販売・事務分野3社、医療事務分野3社)
※採用企業は全て奈良県
 - ③職業訓練実施機関 5機関(営業・販売・事務分野3機関、医療事務分野2機関)

公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果（職業訓練修了者）①

受講動機等

Q1. 職業訓練を知った・受講したきっかけは

営業・販売・事務分野

- 相談窓口で案内及び提案があった。未経験の事務職にチャレンジしたかったが、パソコン操作に自信が無く、新たなスキルを身につけたかった。
- ハローワーク内のリーフレット等で知った。ブランクはあるが、職歴（事務職）を活かして再就職したいと思い、就職先の幅が広がると考えFPが入っているコースを選択した。
- 制度があることを知っていた程度だったが、受講歴のある知人から勧めがあった。店を持つ夢があり経理経験を積みたかったが、かなりのブランクがあることから受講を選んだ。

医療事務分野

- 制度があることは知っていたが、家庭事情で受講の余裕が無かった。憧れていた医療機関での勤務や未経験職種へチャレンジするため、相談窓口の勧めもあり受講を決めた。
- 知人が職業訓練を受けたことがあり、教えてもらった。未経験職種に挑戦するため、資格も取得し、就職に向け自信をつけたかった。
- 駅の広告で職業訓練のことを知った。新たなスキルを身につけ、資格も取得し、年齢に関係なく長く勤務できる未経験職種に挑戦しようと考えた。



結果・検討課題等

ハローワークのリーフレット、職員や知人からの勧め等、幅広いきっかけがあった。

両分野共に、未経験やブランクのある職種への就職を目指して受講した方が多い。

ハローワークにおける適切な訓練コースへのあっせんの強化と併せて、訓練受講を必要とする潜在的な求職者が存在するため、ハローワークを利用していない層にも広く制度周知を行う必要がある。①②

就職

Q2. 現在の企業に就職したきっかけ・経路は

営業・販売・事務分野

- ハローワーク 3名

医療事務分野

- 訓練実施機関・ハローワーク双方より情報提供（自己就職）
- 求人情報サイト
- ハローワーク



結果・検討課題等

営業・販売・事務分野は全てハローワークにおける紹介、医療事務分野は経路が様々であるが、特に求人倍率の低い分野であることもあり、引き続きハローワークの就職支援の強化を図ることが必要。③

訓練受講内容等

Q3. 職業訓練を受講して良かった点は

営業・販売・事務分野

- 未経験職種への転職は年齢面も含めて不安があったが、スキルを身につけることで自信が持てるようになった。
- 簿記の知識はあったが、制度の変更点を学び直せた。
- 会計ソフトを学んだおかげで、スムーズに業務を行うことができる。
- キャリコンや就職支援は、前職で長く勤務していたことから就職活動経験が少なく、応募書類作成や面接指導など非常に役立った。
- 自己分析では、いろいろな人の意見を聞き、自分を見つめ直す時間ができて良かったと思っている。
- パソコンや会計ソフトの知識が身についただけでなく、講師や受講生の方々が話しやすく、低下していたコミュニケーション力を復活することができた。

医療事務分野

- 約3ヶ月間という短期間で、複数の資格取得を目指せる、とても充実したカリキュラムだった。
- 未経験であったため、訓練受講により応募書類に書けるものが多かったことは良かったし、アピール材料となった。
- 医療機関は未知の世界で、知識が無い状態では、業務内容が全く分からなかったと思う。勉強したことにより、スムーズに業務に従事できている。
- まんべんなく勉強でき、仕事で直接使う知識ではなくても、総合病院であるため役に立っている。
- 医療保険制度、安全衛生など勉強できて良かった。従事している業務でなくても、医療機関で勤務する上で関連があり、知識を身につけたことが役立っている。
- 全てのカリキュラムが役に立った。接遇や自己分析のカリキュラムは、自身の強みを理解することができ、自己PRとしても活用できたため、とてもためになった。

結果・検討課題等

両分野共に、訓練修了生からの評価は高かった。

特に医療事務分野においては、規模の大きな病院での勤務の方が多く、自身が従事する業務以外の知識についても役立っているとの声が多く聞かれた。

訓練修了者の声を求職者に伝えていくことにより、定員充足率の向上につながるのではないかと④



その他

Q4. その他職業訓練全般について

営業・販売・事務分野

- 一緒に事務を行っている方からは、パソコン操作に関する知識を評価してもらっている。
- 会社では、一番パソコンに詳しくて、会計ソフトを一番活用していると言われて嬉しかった。
- 長く同一企業で勤務していたため、頭の切り替えや考え方を整理するための時間を得られた。講師の方も親切で、様々なアドバイスをもらえた。
- 託児所付きのコースで、子育て中の方には良かったと聞いている。
- 無料で受講でき、交通費も補助していただき、給付をいただけるため安心して受講することができた。
- 同じような立場の人が受講生に多くいて、情報共有をすることができた。
- 申込時に訓練コースを見比べ、この部分は学びたいがこの部分はいらないというのがあり、かなり迷った。
- パワーポイントをもっと学びたかった。仕事ではメールの使用が多いので、基本的な社用メールの使い方などを学べればありがたかった。（現在、3ヶ月から4ヶ月に変更し内容も拡充。）
- 接客をロールプレイングで学びたかった。マーケティング、ネットワーク知識、Webサイト、ネットショップ管理は、前職で知識があったが、時間が短く、最新の内容ではなかった。

医療事務分野

- 受講により再就職まで空白ができることや収入面の不安があったが、ハローワークで相談し、雇用保険を受けながら受講できると聞いて安心した。
- 訓練に通って一番良かった事は、相談できる仲間ができたこと。
- 訓練期間中は手当の支給もあったので、あせらず訓練を受けて就職を決めようと思え、しっかり勉強することができた。
- 今の仕事も一般的なパソコン操作を多く行っているが、どのような職種でも必要となるため、一般的なパソコン操作をカリキュラムに入れてはどうか。
- カルテの入力作業もあるため、入力の実技の時間がもっと取れば良かった。
- 医事コンピュータの実習はあったが、時間が短かった。

結果・検討課題等

訓練受講で得たスキルを就職先で評価されることで、やり甲斐や就労意欲の向上に結びついている。

訓練修了者の声を求職者に伝えていくことにより、定員充足率の向上につながるのではないかと。④

各種給付の制度があることにより、受講中の生活の不安が解消され、訓練受講に踏み切ることができたとの声も聞かれた。

受講中の各種支援制度についても引き続き周知していく必要がある。⑤

訓練修了者の希望等を訓練実施機関へ伝えることで、カリキュラムの更なる充実を図ることができる。⑥



Q5. 職業訓練を受講しようかどうか迷っている人へ	
営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> ● ブランクが空くことから受講を迷ったが、年齢面などから新たな職種へチャレンジする不安を払拭することができ、逆に就職への近道になりました。 ● 3ヶ月の訓練は最初長いように思ったが、復習しながら進むとあっという間ですよ。 ● フォロー・サポートしてくれる人がそばにいてくれるのは心丈夫だった。ハローワークも訓練施設も就職活動のサポートをしてくれて助かった。一人じゃない。 ● 今は転職が当たり前になっている。リスキングなども進めていく状況なので、自らスキルアップを行うには職業訓練に行くのが良いと思う。
医療事務分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 現実になるとは想像していなかった憧れの医療の職場で勤務でき、勉強したことが役立っています。 ● 勉強の面だけでなく、訓練施設が就職活動も含めて様々なアドバイスやサポートをしてくれます。一人で勉強や求職活動をするよりも断然安心感があります。 ● 資格・知識を習得するだけでなく、就職活動のアドバイスは、非常に役に立った。期間を延長して、もっと勉強したかったくらいです。 ● 未経験職種に挑戦する中で、不安や分からないことを同じ立場で話せる仲間ができ、共感することが多く心強かった。もう一度訓練生活に戻りたいくらい、充実した時間でした。 ● 訓練受講に期間は要するが、自身への投資だと思う。迷ったら受けてみるべきだと思う。

訓練受講修了者の生の声を届けていくことが、受講を迷っている求職者の背中を押す効果があると思われる。現在、訓練修了者の声を記載したリーフレットを作成し周知を行っており、内容の更新、充実を図りながら引き続き周知を行っていく必要がある。

公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果（採用企業）①

認知

Q1. 職業訓練についてどの程度ご存じですか

営業・販売・事務分野

- 聞いたことはあるが、詳細までは分からない。
- ある程度は知っている。
- 製造業のためものづくり分野の職業訓練に興味はあったが、聞いたことがある程度。

医療事務分野

- 他支店において職業訓練を実施しており、訓練実施機関とも連携しているため、よく知っている。
- 採用担当者のうち1名は、自身が事務関連の訓練受講歴がある。
- ある程度は知っている。



結果・検討課題等

医療事務分野においては、特定の分野であるため、一定の認識があるものの、営業・販売・事務分野においては、聞いたことがあるという程度の認識であることから、訓練分野により差が見られた。

職業訓練について、幅広い企業に認知してもらうことが必要。⑦

採用

Q2. 職業訓練修了者であったことは、採用選考に影響がありましたか

営業・販売・事務分野

- 影響があった。少人数のため、一から教えて育成することは困難。パソコン操作や経理関係などの勉強をしており、資格も取得していたこと。
- 多少影響はあった。基礎的なスキルが身につけているため、より早く実践的な業務内容を習得してもらえると考えた。
- 選考においては、知識があることはプラスになった。

医療事務分野

- 影響があった。医療事務の基本的な知識があること、訓練を最後まできちんと修了している人ということで、安心できる方と感じた。
- 多少影響があった。人柄やコミュニケーション能力が高いと感じたこと、職業訓練に通うという向上心の高さも魅力を感じた。
- 医師事務等作業補助での採用ため、選考時に訓練受講は考慮していないが、医療事務全般を勉強していることは、病院で勤務する上で有用と考える。



結果・検討課題等

両分野共に、訓練受講が採用に影響している状況が見られた。

少人数で事務を行う中小企業では、自社での育成に困難性があり、知識を身につけていることを評価している。

評価している点も含め採用企業の声を求職者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかと。⑧

公的職業訓練効果検証ワーキンググループによるヒアリング結果（採用企業）②

スキル

Q3. 職業訓練で習得が望ましいスキル・技能などがありますか

営業分野・販売・	<ul style="list-style-type: none"> ● パソコン操作は必要となる。資格自体は必ずしも必要ではないが、事業主自身は事務の専門ではないため、目安になり安心感がある。 ● SNSなどで自社の情報を効果的に発信することができる技能などがあればなお良い。 ● パソコン操作。経理は2名で行っているが、パソコン操作に詳しいので、その知識を活かして仕事をしてもらっている。
医療事務分野	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の訓練内容で、資格取得については十分。また、一般的なパソコン操作は必要。資格がなくても採用は可能だが、資格の有無で給与が異なるためあった方が良い。 ● 医療機関は人と接する機会が多く、コミュニケーションスキルが重要。優先順位のつけ方や判断するスキル、クレーム対応なども。 ● 医療用語やカルテの書き方の知識が必要。カルテの作成等も全てパソコン操作となるため、一般的なパソコンの操作。



結果・検討課題等

両分野共に、カリキュラム等へは一定の評価が得られた。また、資格取得を必須とはしないが、技能・知識を図る目安としている傾向が見られた。

共通してパソコンスキルの習得、医療事務分野では、コミュニケーションスキルを求める声が聞かれた。

訓練実施機関へ採用企業のニーズを伝えていくことが必要。⑨

その他

Q4. 職業訓練に関するその他の意見・要望等

営業分野・販売・	<ul style="list-style-type: none"> ● もう一名の事務員からは、資格もあり、パソコン操作ができるので心強いと聞いている。 ● 職業訓練の受講は、本人の知識・技能の習得だけでなく、努力を図る物差しとなる。 ● パソコンの知識を活かしており、他の社員も分からないことを教えてもらい助かっている。工場であるため若い技術者を採用したい。同じ製造分野の訓練があればありがたい。
医療事務分野	<ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーション能力が必要なので、1ヶ月でも実習があるといい。 ● 医療機関での業務は流れがあり、業種への理解ができていることはメリット。訓練を受講するというのは、自ら学ぶということが積極的で好印象。 ● 受付、会計等の業務は外部委託しているため、医師事務のできる方を希望。



結果・検討課題等

両分野共に、訓練受講修了者へ一定の評価が得られている。また、受講すること・学ぶことへの評価も見られた。

評価している点も含め採用企業の声求职者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかと。⑧

訓練実施機関へ採用企業のニーズを伝えていくことが必要。⑨

就職支援

Q1. 就職支援で工夫している点は

営業・販売・事務分野

- キャリア・コンサルティングの充実を図っている。授業やカリコン時間外での個別対応に力を入れており、独自の相談方法だと思っている
- 簿記資格はかなり強みになるので受けるように促している。
- 2週間ごとに新着の求人を教室に置くようにしている。教室に置いてあり、求人票を見るだけで意欲が違う。
- 事務局がカリコンの資格を取ることで就職支援の幅をもっと充実させることができると考えており、受験中。
- 修了後も月2回の就職面談を行っている。その際にパソコンやコピー機を無料で貸し出すことで、求人票の検索・印刷等のサポートができ、評判である。
- ハローワークの相談員しか持っていない情報もあるので、ハローワークに足を運ぶように指導している。

医療事務分野

- キャリア・コンサルティングの充実を図っている。試験の1級を終えてから就職活動に入るが、関連業界の企業との繋がりを構築している。
- 新着の求人情報を積極的に提供することにより、就職活動の意識の向上が図れる。
- 卒業後もカリコンのサポートを実施している。気軽にカリコンや就職支援が受けられるよう、受講者に適した担当者に対応できるよう増員や上級資格の受験に取り組んでいる。
- 連携している団体等、地域のつながりがあり、信頼関係もあるので訓練生も安心して就職することができる。



結果・検討課題等

キャリア・コンサルティングをはじめとする就職支援に力を入れている状況が伺われ、職業訓練修了者のヒアリング結果とも一致している。

訓練実施機関が行っている支援内容をハローワーク職員が理解する機会を確保し、連携した就職支援に結びつける必要がある。⑩

カリキュラム

Q2. 訓練カリキュラムで工夫している点は

営業・販売・事務分野

- Word・Excel等の活用など実際に使えるカリキュラムの設定にしている。
- 就職支援のカリキュラムに応募書類を組み込んで力を入れている。
- 資格を取ってからしか就職活動に動けない人が多い為、簿記の授業を先に、PCも設定することで、実技を2カ月目でできるようカリキュラムの設定を工夫している。
- 訓練期間も3ヶ月から4ヶ月に変更し、深く学んでもらえるようにしている。
- FPは自信がない人が多いが、1つ資格を持っているだけでその人のモチベーションが全然違う。特に3級は取りやすく自信にも繋がるため、取得に取り組んでいる。
- テキストについては、見やすいもの、教えやすいものなどを選定し、常に新しい情報を取り入れている。
- 人柄は就職の重要な要素だが、訓練で培うのは難しい。グループワークを通じて、自身の良いところ、悪いところに気付けるよう、声掛けも積極的に行い促している。

医療事務分野

- 関連資格では、外来、入院、調剤の資格を取ることで知識を持った状態でレセプトの授業に取り組むことができるようにしている。
- 自校で取得できる資格や訓練受講するだけで取得できるものもある。訓練時間の設定も考慮しており、他の資格の認定校にもなれるように申請している。
- 医療事務、医師事務、調剤事務の3種類は個人の強みが出やすいため、3種類の中で自分の望むところに就職できるよう資格取得にも力を入れている。
- 医療事務の求人は未経験でもいいが資格は必要と記載されている場合も多く、資格取得を充実させており、求人ニーズに合うよう設定を行っている。

結果・検討課題等

訓練実施機関ごとにカリキュラムを工夫し、自校の特徴を出すよう取り組んでいる。

訓練実施機関が行っている訓練内容や特徴をハローワーク職員が知る機会を確保し、求職者との相談に活かすことにより、適切な受講あっせん、受講者の確保に結びつける必要がある。⑪



連携・要望

Q3. ハローワーク等との連携や要望する点は

- 早く実技をやりたい受講者もあり、ハローワークがどこまで能開講習を理解していて、正しい案内ができているのか。
- 3か月以内の就職を受講者がどこまで理解して訓練に来ているのか、ハローワークはどんな説明をしているのか。
- ハローワークと訓練実施機関が、訓練や就職に対しての意識について、足並みを揃えていきたいと考えている。
- ハローワーク職員用に紹介のチラシを作成し、資格の説明もしている。カリキュラムの変更や新しいコースの見どころも説明している。
- ハローワーク内の部門間で連絡の共有や疎通ができていないように思う。また、出先機関はチラシを置いてくれているが、周知は十分なされていない。
- 映像を作成しハローワークへ提供、求職者向け説明会への参加、職員の自校への訪問・見学、ハローワークのオンラインセミナーに参加したりしている。
- ハローワークでセミナーや模擬面接を行っていた。自校でも行っているが、企業のことをよりよく知るハローワークで開催するのが有効だと考えている。
- ハローワークと情報共有を行い、職業訓練の意義を理解していただくことが重要と考えており、足を運ぶようにしている。
- 一部ハローワークではオンライン説明会を行ってくれており、助かっている。
- SNSでの周知を検討も、HP等を見ての応募者は100人に1人程度。ハローワークでチラシを見るか、職員が勧めるかで受講するかが決まるため、職員への周知にも力を入れている。

結果・検討課題等

ハローワークと訓練実施機関との連携が受講者の確保、訓練受講中、就職支援の各段階において重要であるが、両者間でコミュニケーションが取れているかによって多少の意見の違いが見られた。

情報の共有、訓練コースの内容、訓練実施機関の支援内容等の取り組みを知り、コミュニケーションを図る機会の確保が必要。⑫



ヒアリング結果を踏まえた今後の対応について ①

ヒアリング結果を踏まえて、今後、以下のような取り組みを行う予定。

- ① ハローワークにおける適切な訓練コースへのあっせんの強化を図る必要がある。
- ③ 引き続きハローワークにおける就職支援の強化を図ることが必要。
- ⑩ 訓練実施機関が行っている支援内容をハローワーク職員が理解する機会を確保し、連携した就職支援に結びつける必要がある。
- ⑪ 訓練実施機関が行っている訓練内容や特徴をハローワーク職員が知る機会を確保し、求職者との相談に活かすことにより、適切な受講あっせん、受講者の確保に結びつける必要がある。
- ⑫ 情報の共有、訓練コースの内容、訓練実施機関の支援内容等の取り組みを知り、コミュニケーションを図る機会の確保が必要。



訓練内容、訓練実施機関の支援内容等をハローワーク職員が理解する機会を確保し、関係性を構築するため、見学会、意見交換会等を実施。

- ② 訓練受講を必要とする潜在的な求職者が存在するため、ハローワークを利用していない層にも広く制度周知を行う必要がある。
- ④ 訓練修了者の声を求職者に伝えていくことにより、定員充足率の向上につながるのではないかと。
- ⑤ 受講中の各種支援制度についても引き続き周知していく必要がある。



ハローワーク利用者と併せて、子育て世代等を含むハローワークを利用していない層を対象とした周知・広報を実施。

ヒアリング結果を踏まえた今後の対応について ②

ヒアリング結果を踏まえて、今後、以下のような取り組みを行う予定。

- ③ 引き続きハローワークにおける就職支援の強化を図ることが必要。
- ⑦ 職業訓練について、幅広い企業に認知してもらうことが必要。
- ⑧ 評価している点も含め採用企業の声求职者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかな。



訓練修了生歓迎求人確保、就職支援・求人充足支援につなげるため、企業への周知を実施。

- ⑥ 訓練修了者の希望等を訓練実施機関へ伝えることで、カリキュラムの更なる充実を図ることができる。
- ⑨ 訓練実施機関へ採用企業のニーズを伝えていくことが必要。



奈良県、機構奈良支部等による訓練実施機関への助言・情報提供の実施。

- ⑧ 評価している点も含め採用企業の声求职者、求人者の双方に伝えることで、定員充足率や就職率の向上に結び付くのではないかな。



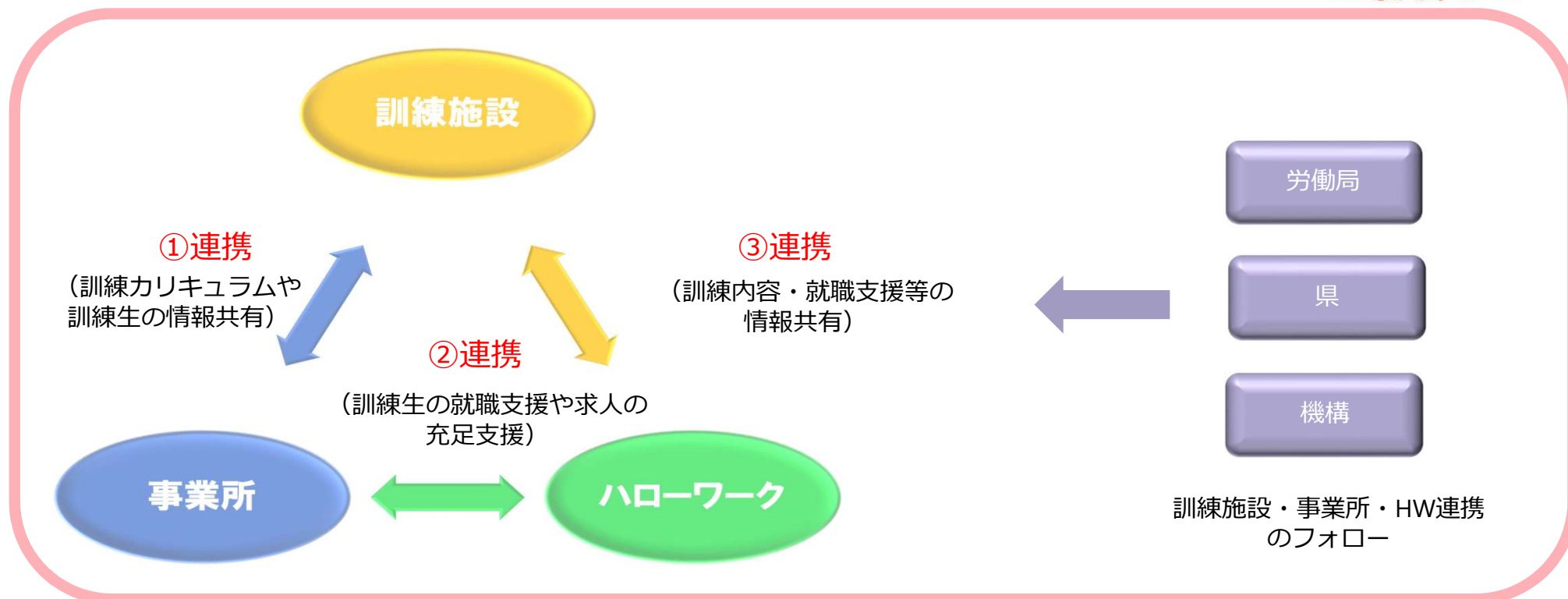
採用企業が評価していることについて、ハローワークを利用していない層も含めた求职者への周知を実施。

- ⑫ 情報の共有、訓練コースの内容、訓練実施機関の支援内容等の取り組みを知り、コミュニケーションを図る機会の確保が必要。



ハローワーク間で、訓練実施機関との連携状況や事例の共有を実施。

地域ニーズに応じた公的職業訓練受講生の雇用創出



① 訓練施設と事業所による連携

- ・ 訓練施設を活用した企業説明会、面接会の開催
- ・ ワーキンググループにより把握した事業所ニーズの情報共有

② 事業所とハローワークによる連携

- ・ 求職者の状況に応じた担当者制による就職支援（オンライン相談、求人情報提供、応募書類添削など）
- ・ 事業所への職業訓練周知を兼ねた「職業訓練生歓迎求人」の確保、訓練生を対象とした見学会・面接会の実施
- ・ 訓練生が検索しやすい求人票への変更（「仕事の内容」・「備考欄」への追記）

③ 訓練施設とハローワークによる連携

- ・ ハローワークの職員を対象とした訓練施設見学会や訓練科目説明会などの開催
- ・ 訓練施設とハローワーク職員との座談会などの開催

指標から分析した改善すべき方向性

就職率 高

【就職率「高」・応募倍率「低」の分野の改善方策】

求人ニーズの観点からは効果的な訓練と言えるが、受講者ニーズをとらえ切れていない可能性がある。

<考えられる改善の方向性>

- 訓練コースが、求職者にとって応募や受講がしやすい募集日程・訓練日程となっているか要検討。
- 受講勧奨の段階で、訓練コースの内容や効果に関する周知の強化について要検討。

応募倍率
低

【就職率「高」・応募倍率「高」の分野の改善方策】

求人ニーズ、求職者ニーズを踏まえた効果的な職業訓練と言える。

<考えられる改善の方向性>

- 応募倍率が100%を超えている場合には、申込者数に応じた定員の拡充について要検討。

応募倍率
高

【就職率「低」・応募倍率「低」の分野の改善方策】

求人ニーズ、受講者ニーズ双方をとらえ切れていない可能性がある。

<考えられる改善の方向性>

- 求人ニーズ、受講者ニーズに即した訓練内容になっているか要検討。
- 就職支援策に課題がないか、強化する必要があるか要検討
- 訓練コースの周知や受講勧奨に課題がないか要検討。
- 以上を講じても改善されないときは訓練コースの縮小を要検討。

【応募倍率「高」・就職率「低」の分野の改善方策】

求人ニーズをとらえ切れていない可能性があるとともに、受講者に就職率が低いことが伝わっていない可能性がある。

<考えられる改善の方向性>

- 求人ニーズに即した訓練内容になっているか要検討。
- 就職支援策に課題がないか、強化する必要があるか要検討。
- 受講勧奨時に、受講者に必要な情報が伝わっているか、要検討。

就職率 低